

保険フォーラム2021

OLIS生命保険寄附講座

生命保険 経済学からのランドスケープ

日時：2021年10月30日（土曜日）

13：00～16：30

Zoom による WEB開催

主催者緒言

近時、保険数理的な観点を介して生命保険はファイナンスの諸分野と様々な交流関係を築いて参りましたが、経済学はより多彩かつ広範な視点を提供することが可能です。

狭窄になりがちな視野を広げるために経済学からの幅広い視座の提供をいただく機会を設けることは有意義であろうと思われまます。そのような次第で今年度の「保険フォーラム」は生命保険を経済学の視点から眺めたらどう見えるのか、本学の経済学の諸先生方によってお話を頂く場といたしました。

13:00-13:10 保険数学 山内恒人(理工学部):主催者からの概要説明

13:10-14:10 医療経済学 井深陽子先生:日本と諸外国における医療費支払制度

講演概要:医療体制を支える仕組みは、医療を技術面から支える医療提供体制と経済面から支える医療費支払制度からなる。本講義では、このうち医療費支払制度に注目し、日本の公的医療保険制度および諸外国における医療費支払制度の仕組みと制度の特徴、および民間保険との関係性について整理する。諸外国の事例としては、公的財源からの支払いを行う英国、また民間医療保険の役割が大きい米国を中心に扱う。

14:20-15:20 行動経済学 大垣昌夫先生:行動経済学で考える生命保険

講演概要:標準的な経済学では保険は失業などによる所得の減少等のリスクを他の人たちとシェアすると説明する。生命保険が他の保険と本質的に違うところは、リスク・シェアリングによる受益者が意思決定者ではなく家族等の他の人たちであることである。利他性や信頼等を重視する行動経済学で生命保険を考えると、自分の子孫に対する利他性や、配偶者が受益者である場合、自分の死後まで含む共同体への貢献を喜ぶ動機などの役割が見えてくる。

15:30-16:30 金融ジェロントロジー 駒村康平先生:加齢が意思決定に与える影響-神経経済学と金融ジェロントロジーからのアプローチ

講演概要:超高齢化社会では高齢者の保有する金融資産は増加し、その管理・運用は極めて重要となる。しかし、加齢とともに認知機能は低下することで高齢者の資産管理・運用能力に課題が発生している。例えば認知機能の低下が進み認知症になった人の金融資産は100兆円に達すると見込まれる。

本講義では加齢が経済的意思決定に与える研究領域である神経経済学の研究動向等をレビューし、その知見を金融ジェロントロジーに活かすことを議論する。

参加費用は無料ですが事前にWEB登録をしていただきます。URLは下記のとおりです。

<http://www.olis.or.jp/hfea/program/pro20211030k.html>